

特別セッション「地すべりダムと貯水池の地すべり」の開催案内

特別セッション「地すべりダムと貯水池の地すべり」世話人
王功輝（京都大学防災研究所 斜面災害研究センター）

地すべりダムは、脆弱で構造的に不安定な場合が多く、移動土砂の自重や越流水により容易に崩壊し、時として湛水した水とともに一気に流下し、甚大な二次災害を引き起す場合もある。例えば、1786 年中国四川省で起きた地震により大渡川で形成された天然ダムにおいては、地震の10 日後に決壊して巨大な洪水が発生し、その被害域は1,400km の下流まで達して約10万人の犠牲者が出た。また、2004年の新潟県中越地震や2008年の中国四川大地震、2011年紀伊半島の台風12号などにおいて、数多くの地すべりダムが形成され、災害復旧に対して大きな影響を与えたことは記憶に新しい。

一方、ダムの建設により形成された貯水池においては、ダムの湛水によって従来安定していた地すべりが再活動したり、新たな地すべりが発生することがある。これによって貯水池区域だけではなく、場合によってはダム下流区域へ大きな被害を及ぼすこともある。例えば、1963年にイタリア・バイオントダム貯水池において発生した大規模地すべりでは、貯水池に流入した地すべり土塊に伴う津波によって、ダム下流の村が被災し、2,015人の人命を失う大惨事となった。

このような地すべりダムや貯水池の地すべりに伴う災害を最小限に食い止めるには、これらの災害現象に対する研究をいっそう深める必要性がある。

このような背景のもと、2013 年度の日本地すべり学会松江大会に合わせて、「地すべりダムと貯水池の地すべり」を研究発表会の特別セッションとして企画したいと考えている。

この特別セッションでは、四川大地震時に発生した数多くの地すべりダムに対して決壊危険性を軽減する対策工事に携わった中国成都の研究者を始めとして、近年発生した地すべりダム・貯水池の地すべりの研究および対策に携わっている国内外の研究者・技術者の方々のご参加を期待している。

*本特別セッションは、講演集執筆・発表・質疑応答いずれも、一般発表と同じスタイルで実施されます。